

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーチンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

# コーポレートガバナンス・内部統制

日産が持続可能な企業であるためには、高い倫理観と透明性、また強固な基盤を備えた体制が不可欠です。日産の事業はグローバルに拡大し、各地域で多様なステークホルダーの皆さまと活動していますが、すべてのステークホルダーから信頼され続ける企業であるためには、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンス(法令順守)を実践しなければなりません。また、さまざまなモニタリングシステムを活用しながら経営の透明性を維持する企業統治の体制を構築するとともに、事業目標の達成を阻害する要因であるリスクを適切に評価し、効果的に管理することが重要です。日産は世界の各拠点が連携しながら管理体制をグローバルに整備し、従業員・ビジネスパートナーへの啓発活動に取り組んでいます。

## 取り組みの柱

「日産グローバル賄賂防止ポリシー」研修を受講した従業員

〈2015年度／日本〉

**98.8%**

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## コーポレートガバナンス・内部統制

### CSRスコアカード

2015年度目標に対する達成度 **✓✓**:達成 **✓**:ほぼ達成 **×**:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標	進捗確認指標	2014年度実績	2015年度実績	評価	次年度以降の取り組み	長期ビジョン
コンプライアンス	コンプライアンス違反未然防止の仕組みが機能し、日産のすべての会社でコンプライアンスの順守が徹底される	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルコンプライアンス委員会の開催</li> <li>各地域の現状の把握と必要な対応策の策定状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2014年度グローバルコンプライアンス委員会を5月と12月に開催</li> <li>マネジメント体制の刷新に合わせ、グローバルコンプライアンス委員会の新ガバナンスを決定</li> <li>グローバルコンプライアンス関連のローカルガイドラインを地域ごとにイントラネットに掲載</li> <li>賄賂防止と輸出管理のGeneral Awarenessトレーニングを米州から開始。今後、他地域でも展開予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2015年度グローバルコンプライアンス委員会を2015年5月、12月、2016年3月に開催</li> <li>グローバルコンプライアンス室を設置</li> <li>外部窓口を持つ内部通報制度を拡充し2つの地域に新たに設置</li> <li>コンプライアンス関連の案件について上申プロセスを設定</li> </ul>	✓✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部窓口を持つ内部通報制度についてグローバルでの展開と統合を行う</li> <li>グローバルでの倫理研修制度を確立する</li> <li>グローバルコンプライアンス指針を策定する</li> <li>取締役や執行役員を対象とした1対1の研修制度を設定する</li> <li>機密情報保持と内部取引についてグローバルでの啓発活動を開始する</li> </ul>	どのように順守するかわけなく、さらに何が出来るのかを考えられるよう、コンプライアンスの枠を超えて行動する
リスクマネジメント	毎年PDCAを正しく回し、リスクマネジメントを機能させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントプロセスに基づいた下記項目の実施状況</li> <li>コーポレートリスクの洗い出しとリスクマップの見直し</li> <li>経営に対する報告と提案</li> <li>ステークホルダーに対するリスクマネジメント活動の情報開示</li> <li>リスクマネジメント活動の進捗状況の管理と取締役会への定期的な報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2014年度のコーポレートリスクとオーナーとを経営会議体にて決定。当該リスクのオーナー主導のもと、リスクごとにリスクマネジメント活動を実施</li> <li>それぞれの活動状況について、中間報告および年度末報告を取締役に報告。リスクマネジメントのPDCAはおおむね有効に回っていることを確認</li> <li>有価証券報告書「事業等のリスク」およびサステナビリティレポートの記述の見直しを実施</li> <li>国内関係会社との会議を年2回開催。北米・欧州・豪州・ブラジルの各拠点およびルノーの担当者との情報共有・意見交換を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アニュアルプロセスに基づき、リスクサーベイを実施</li> <li>FY15のコーポレートリスクとオーナーとをコーポレートリスクマネジメント委員会に提案</li> <li>各オーナー主導の下、リスクマネジメントの活動を実施</li> <li>活動状況については、中間報告及び年度末報告を内部統制委員会及び取締役会にも報告。リスクマネジメントのPDCAサイクルは概ね有効に回っている旨承認</li> <li>有価証券報告書の「事業等のリスク」及びサステナビリティレポートの「リスク管理の状況」の記載内容の見直し</li> <li>情報共有と意見交換の実施(国内子会社:年2回、海外子会社及びルノー:年1回)</li> </ul>	✓✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに当年度のコーポレートリスクを選定し、経営会議体に提案する</li> <li>取締役会への定期的な報告を継続する</li> <li>日産のリスクマネジメントについての評価を向上させるため、開示情報を見直しを行う</li> <li>グループ内でのリスクマネジメント機能の連携を維持するため、国内および海外関係会社との定期的な情報共有・意見交換を継続する</li> </ul>	グローバルにリスクマネジメントの仕組みが機能していることで企業価値の向上に貢献するとともに、積極的な情報開示により外部からの理解にも貢献している
	情報セキュリティの維持・強化、情報漏えいの未然防止・被害最小化・透明性維持などが、ベンチマークレベルで達成されている	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティポリシーに基づいた下記項目の実施状況</li> <li>情報セキュリティ委員会の開催</li> <li>毎年の教育</li> <li>インシデント管理</li> <li>情報資産管理</li> <li>情報セキュリティ評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各活動においてルノーとの連携を強化</li> <li>情報セキュリティ委員会のマネジメント強化</li> <li>毎年の教育実施、コンテンツの改訂</li> <li>社内インシデントのタイムリーな把握、再発防止の実施</li> <li>情報資産管理レベルの継続的向上、ラベリングの徹底・強化</li> <li>情報セキュリティ評価の実施、評価指標の改訂</li> <li>サイバー攻撃、内部不正など、昨今の社外でのインシデント事例から、同様のことが自社内で起きないように改善を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各活動においてルノーとの連携を強化</li> <li>情報セキュリティ委員会のマネジメント強化</li> <li>毎年の教育実施、コンテンツの改訂</li> <li>社内インシデントのタイムリーな把握、再発防止の実施</li> <li>情報資産管理レベルの継続的向上、ラベリングの徹底・強化</li> <li>情報セキュリティ評価の実施、評価指標の改訂</li> <li>サイバー攻撃、内部不正など、昨今の社外でのインシデント事例から、同様のことが自社内で起きないように改善を実施</li> </ul>	✓	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルノーとのさらなる連携強化を図る</li> <li>グローバルレベルで、レベル向上が求められる国・グループ会社の対策を強化する</li> <li>サイバー攻撃、内部不正などへの対策を継続して強化する</li> </ul>	情報セキュリティに関するPDCAサイクルがグローバルに実施され、社会的責務を果たすとともに、安定した企業活動の遂行に寄与する

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### コーポレートガバナンス・内部統制への取り組み

日産ではガバナンスの体制、コンプライアンス(法令順守)、リスクマネジメントを企業経営における重要な要素と位置づけています。経営陣の責任が明確かつ透明性の高い体制を築くこと、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンスを実践すること、そして、効果的で適切なリスク管理体制をグローバルに整備すること、この3つを基盤としてグローバルにガバナンスを推進しています。

### コーポレートガバナンス体制

**コーポレートガバナンスを充実させることは、日産の経営の最重要課題のひとつです。そのために最も重要なのは、経営陣の責任を明確にすることであり、日産はすべてのステークホルダーに対して明確な経営目標や経営方針を公表し、その達成状況や実績を速やかに高い透明性を持って開示しています。また経営陣は、「持続可能な企業であるためには高い透明性と失敗に学ぶプロセスこそが何より重要である」というトップのメッセージを共有しています。**

#### 企業統治の体制

経営の透明性や機動性を向上し、責任体制を明確にし、さらに取締役の業務執行に対して適切な監督・監査を行うため、取締役会による監督と監査役による監査を行う体制および執行役員制度を採用しています。取締役会は社外取締役も含めて構成され、会社の重要な業務執行を決定するとともに、個々の取締役の職務執行に対する監督を行っています。

効率的かつ機動的な経営を行うため、取締役会の構成はスリムなものとし、業務執行については明確な形で執行役員および従業員に権限を委

譲しています。さらに、会社の重要事項や日常的な業務執行に関する事項については、それぞれの業務執行責任者が議長となって審議し議論する会議体を設置しています。

#### 内部統制システムの基本理念

日産は、社内外に対して透明性の高い経営を重視するとともに、明確なコミットメントを達成するために、一貫性のある効率的な経営を目指しています。この基本理念のもと、取締役会では、会社法に定める内部統制システムおよびその基本方針を決議しました。取締役会はその責任において、体制と方針の実行状況を継続的に注視するとともに、必要に応じて変更・改善を行っています。また、内部統制について担当する取締役を置いています。

また、日産では監査役会制度を採用しています。監査役は、取締役会への出席のほか、取締役などから職務状況の聴取などを行い、取締役の職務執行全般にわたり監査をしています。会計監査人からは定期的に監査の計画および実施結果の報告を受けるとともに、意見交換を行い、その妥当性を判断しています。同様に、グローバルコンプライアンス室およびグローバル内部監査室からも定期的に報告を受け、監査の参考としています。

#### 独立した組織による内部監査

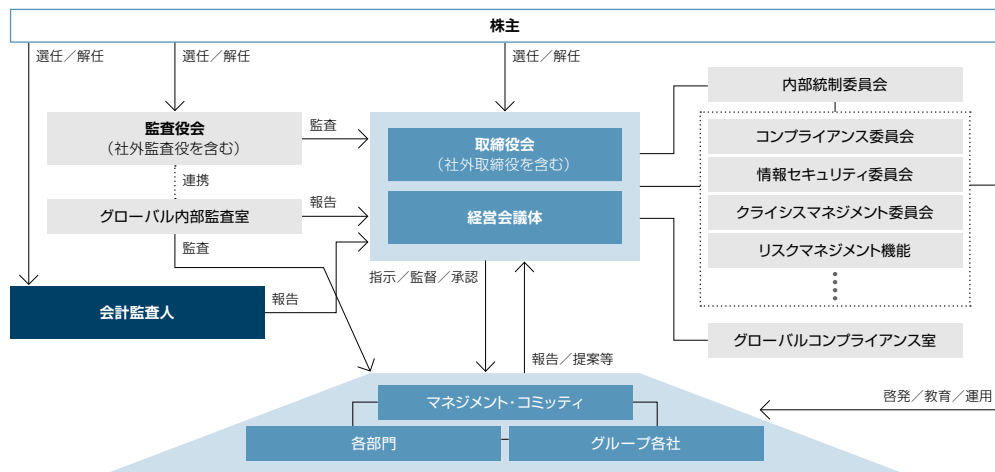
日産は、独立したグローバル内部監査部署を設置しています。各地域では統括会社に設置された内部監査部署が担当し、具体的な監査活動をチーフインターナルオーディットオフィサー(CIAO)が統括することにより、グループ全体においてもグローバルにおいても有効かつ効率的な内部監査を実施しています。

▶ website

▶ 取締役会に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産の内部統制システムの概要



▶ 2016年3月時点

コンプライアンス

CSRを推進するうえでは、すべての従業員が高い倫理観を持ってコンプライアンスを実践することが重要です。日産はグローバルコンプライアンス室を設置し、世界の各拠点にコンプライアンス施策を推進する担当部署と推進責任者を配置して、コンプライアンス意識の醸成に努めています。

従業員におけるコンプライアンスの徹底

すべての従業員が高い倫理観を持って業務を遂行することが、日産のCSR推進の基盤です。2001年には、従業員がどのように行動すべきかを「日産グローバル行動規範」\*として定め、グループ全社でグローバルに適用しています。

取締役や執行役員に対しても、「取締役・執行役員の法令順守ガイド」を策定し、定期的にセミナーや啓発活動を実施することなどによりその順守を徹底しています。

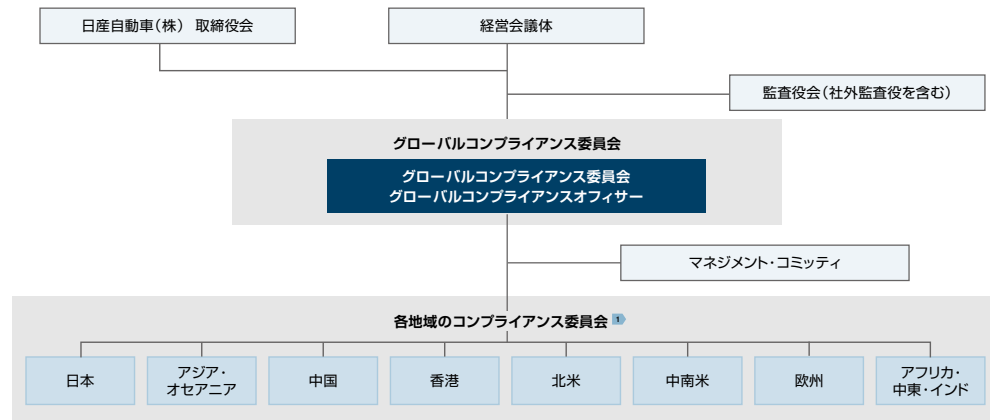
さらに「グローバルコンプライアンス委員会」の統括のもと「リージョナルコンプライアンス委員会」を地域ごとに設置して、違法行為や非倫理的行為を未然に防ぐグローバルな体制を構築。法令・倫理順守機能を高めるため、各地域・拠点が連携しながらコンプライアンスの周知徹底と違法行為の未然防止活動に取り組んでいます。日産グループでは、従業員が行動規範や法律に違反・抵触した場合、厳しく対処しています。また、コンプライアンスの管理をこれまで以上に徹底するため、日産では2015年度にグローバルコンプライアンス室を設置しました。

▶▶ page\_108

▶ 「日産グローバル行動規範」の詳細を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

2015年度グローバルコンプライアンス委員会組織



- 1 各地域のコンプライアンス委員会はローカルレベルのコンプライアンス委員会を適切に監視しています
- 2 2016年3月時点

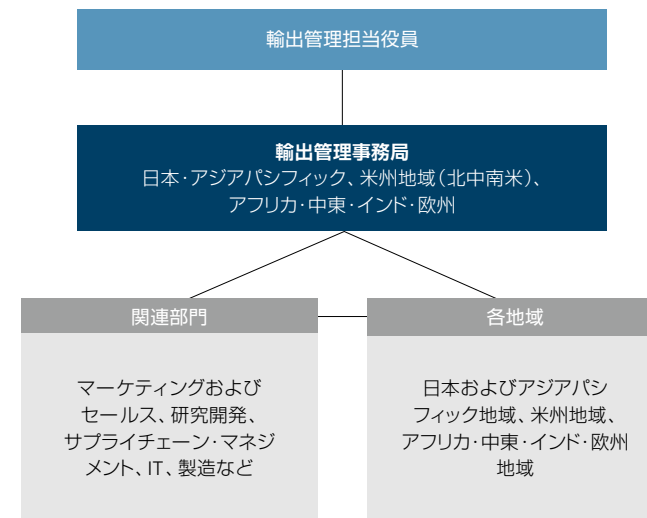
安全保障に関する輸出管理

日産は、国家および国際間の平和と安全の維持に貢献するため、日本をはじめとする各国の安全保障に関する輸出規制法令の順守を徹底しており、規制対象となる貨物や技術について、テロ、産業スパイ、人権侵害などの懸念活動への拡散防止を図っています。各国・地域の法令の順守を確実にを行うため、日産では、輸出管理担当役員を長とする自主管理体制を構築して、社内規程や業務プロセスを整備し、輸出管理事務局とビジネス部門が協働して厳格に運用しています。

内部管理のレベル向上を図るため、日産は各地域で輸出管理に関するリスクアセスメントを定期的を実施するほか、法規制や事業上の要請に即した監視体制づくりや継続的な運用の改善に取り組んでいます。また従業員の理解レベルを向上させるための教育にも積極的に取り組んでおり、日本で行われてきた研究開発部門への専門的な教育プログラムを米国や

中国でも実施しているほか、スペインやロシアではルノー・日産アライアンスで一貫した教育プログラムなどを実施しています。輸出管理の取り組みでは、世界の各拠点でコンプライアンスの知識を高めるとともに、貿易の推進に力を入れてきました。例えば、輸出管理事務局は、世界に輸出する海外拠点の法規制管理を行いながら営業活動をサポートしています。さらに、世界各国で日産の先進技術を導入する際に、法規制に関するアドバイスを積極的に提供して、自動運転、車載コネクティビティ、電気自動車といった先進技術の発展を支援しています。

輸出管理に関するグローバル組織図



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### コンプライアンスの徹底

日産では「日産グローバル行動規範」を定め、グローバルコンプライアンス室を設置するとともに世界の各拠点にコンプライアンス施策を推進する担当部署と推進責任者を配置してコンプライアンス意識の醸成に努めています。

また、すべての従業員が行動規範を正しく理解し、透明かつ公正な判断によって行動するための教育を重視しています。日本では、すべての従業員を対象に「日産行動規範(日本版)～わたしたちの約束～」を2004年に制定し、以降3年ごとに改定(2013年10月改定)。この規範に関するe-ラーニングまたはVTR教育を行い、受講後には規範順守の誓約書へ署名を求めると、すべての従業員が日産のポリシーを完全に理解し、コンプライアンスに関する問題に直面した際には適切に対応できるよう意識づけを強化しています。

日産が事業活動を行う各地域においても法令順守のためのさまざまな従業員教育を定期的に行っているほか、グループ各社でも「日産グローバル行動規範」を基準とした行動規範を導入しています。さらに、従業員がコンプライアンスに関する施策や行動規範の内容を確実に理解・尊重できるよう、積極的にグローバルレベルで研修を行っています。日本ではコンプライアンス施策がすべての従業員に伝達され、2015年度までに、98.8%の従業員が「日産グローバル賄賂防止ポリシー」\*の研修を受けました。

また、「グローバル内部取引防止管理規程」「個人情報管理規程」「情報セキュリティポリシー」「日産グローバル賄賂防止ポリシー」「グローバル・ソーシャルメディア・ポリシー」などの社内規程に基づいて、コンプライアンス意識を高め違反を低減する活動に取り組んでいます。

▶ website

▶ 「日産グローバル賄賂防止ポリシー」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

### 日産グローバル行動規範

#### 信条

私たちは、お客さま・従業員・株主・取引先・地域社会に対し、常に実直・誠実・公正・敬意の姿勢を持って接します。

下記行動規範は、日産グループ(以下日産)に働くすべての従業員に適用されており、従業員一人ひとりにこの行動規範をしっかりと維持・改善していく責任があります。

### グローバル行動規範

#### ① 法律・ルールの遵守

日産の従業員は、事業活動を行うすべての国の法律、すべての会社のルールを遵守します。

#### ② 利益相反行為の禁止

従業員が心がけるべき最も重要なことは日産の利益です。会社の利益に反して、行動・活動すること、あるいは情報を使用することは禁じられています。

#### ③ 会社資産の保護

日産の従業員は会社のあらゆる資産、資金、情報および知的財産を維持し、保護する責任があります。許可なくこれらを使用または流用することは禁じられています。

#### ④ 公平・公正な関係

日産の従業員は取引先(販売会社、部品メーカー、その他の関係先等)と、公平かつ公正な関係を維持していかねばなりません。

#### ⑤ 透明性と説明責任の確保

日産の従業員は、株主、お客さま、他の従業員、地域社会等の関係者に対し、企業活動にかかわる情報を、公正性と透明性をもって、適時・適切に開示します。

#### ⑥ 多様性の尊重と機会平等

日産は従業員、取引先、お客さま、および地域社会の多様性を評価・尊重します。また、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認されるべきではありません。

#### ⑦ 環境保護

日産の従業員は、製品を開発し、サービスを提供する際、事業目的の範囲内で環境保護を考慮しなければなりません。あわせてリサイクル・省資源・省エネルギーの推進に努めなければなりません。

#### ⑧ 実践・報告の義務

日産の従業員は、この行動規範に従い、業務を遂行することを期待されています。また、行動規範の違反を察知した場合には、速やかにその旨を報告する義務を負っています。その際、当該従業員は報復を受けることのないよう保護されます。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 人権尊重と差別・いやがらせの禁止

日産は、「日産グローバル行動規範」の第6条「多様性の尊重と機会平等」において、従業員や取引先、お客さま、地域社会の多様性を評価・尊重し、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認しないことを定めています。役員および従業員は、相互の人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、身体の障がい、性的指向、年齢、出身、その他の理由で差別やいやがらせを行うことや、その状態を容認することを禁止しています。また、職場におけるセクシュアル・ハラスメントやその他のハラスメント(いやがらせ)を許さないという立場で、男女を問わず、すべての従業員が被害に遭わないよう、その防止に努めています。

### 健全性を高める内部通報制度

日産では、グローバルに従業員一人ひとりがコンプライアンスを徹底し、企業活動が正しく行われるよう、内部通報制度を導入しています。従業員が意見・質問・要望を会社に直接伝える仕組みを整え、業務や職場の改善はもとより、企業倫理を順守する風土づくりに役立てています。

日本国内の日産グループ各社では、2006年4月に施行された公益通報者保護法に則した通報者保護の観点も織り込み、会社の内部に窓口を設置して「イージーボイスシステム」を運用しています。

また、「イージーボイスシステム」の定着を推進する一方、浄化作用をより高め、匿名での通報を可能とするため、2013年8月より外部の通報窓口として「日産コンプライアンスホットライン」の運用を開始しました。「日産コンプライアンスホットライン」ではウェブサイトと電話の両方で通報を受け付けています。第三者機関の経験豊富なカウンセラーが通報者のプライバシーを守りながら質問を通じて適切に誘導し、対応方法についての情報を提供します。

グローバルの各拠点においても、各国の文化や法律を考慮しながら、各社最適な形をとって内部通報制度を設置・運用しています。北米、南米、欧州、アフリカおよびアジアの多くの国々においては、ウェブサイトや電

話で、週7日、24時間体制のホットラインを設置しています。他の国々についても本格的導入に向けた準備を進めています。

日産は通報者への報復を禁じる厳格な方針を定めており、それがコンプライアンス制度の土台となっています。

## リスクマネジメント

**日産ではリスクを「日産グループの事業目標達成を阻害する要因」と定義しています。リスクをいち早く察知・評価し、必要な対策を検討・実行することにより、発生確率を低減し、万が一発生した場合でも、その損害を最小にとどめる努力を続けています。**

### 全社的リスクマネジメントの基本方針と管理体制

リスク管理は常に具体的な対策とつながった実質的な活動でなければなりません。

日産では「グローバルリスク管理規程」に基づき、グループ全体で活動を推進しています。具体的には、事業環境の変化に対応するため、リスク管理の専門部署による役員層へのインタビューを毎年実施。さまざまなリスクの洗い出しに続き、インパクトと頻度、コントロールレベルを評価し、コーポレートリスクマップの見直しを行います。そして経営会議体において、全社的に管理すべきリスクとその管理責任者を決定し、責任者のリーダーシップのもと、各リスクへの対策に取り組みます。さらに、それらの進捗状況は内部統制担当取締役が取締役に適宜報告しています。

個別のビジネスリスクに対しては、発生時の影響と発生の頻度を最小にするため、各部門の責任において、本来業務の一環として必要な予防対策を講じるとともに、発生時の緊急対応策を整備しています。国内外の連結会社とも連携を深め、グループ全体でリスクマネジメントの基本的なプロセスやツールの共通化、情報の共有化を進めています。

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

また、社内のコミュニケーションツールとして導入されているイントラネット上に「コーポレートリスクマネジメント」のサイトを設け、日本、北米、欧州およびその他の海外地域や主要な関係会社向けにもリスクマネジメントに関する情報を発信しています。

日産は現在、中期経営計画「日産パワー88」\*に取り組みんでいます。グローバル市場占有率と営業利益率をともに引き上げるといふ意欲的な計画を達成するには、世界各地に展開している工場の生産能力を活用して投資を抑え、何らかのアクシデントが発生し停止した場合でも迅速に復旧させるなど、効率的な生産が不可欠です。

この中期計画をリスクマネジメントの観点からサポートするため、東日本大震災やタイの洪水で得られた貴重な教訓をさらに進化させ、取り組みの範囲をグローバルに、またサプライチェーンにも拡大して対応を進めています。

### 個人情報保護と情報セキュリティへの取り組み

日産では、情報セキュリティ全般に対する取り組みの基本方針である「情報セキュリティポリシー」をグローバルに展開し、情報セキュリティ委員会のもと、PDCAを回した対策を図っています。特に、グローバルで発生する社内外の情報漏えい事案については随時捕捉し、タイムリーに情報セキュリティの強化を実施することにより、確実に対応しています。同ポリシー徹底のため、情報セキュリティに関する社内教育を継続的に実施し、周知・定着を図っています。

また、各国における個人情報の保護に関する法律を順守し、お客さまの情報を適正に扱うことが社会的責務であると認識し、社内の管理体制およびルール、手続きを整備した個人情報管理規程を策定し、グループ会社全体において徹底しています。

▶ website

▶ 「日産パワー88」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

▶ website

リスク管理の状況については、ウェブサイトをご覧ください